



岡山県原水協通信

2012年4月17日 No210
原水爆禁止岡山県協議会
700-0981 岡山市北区西島田町4-25
TEL086-244-4526 (F)805-6172
kenmin@po5.oninet.ne.jp

赤磐市で原爆写真展 232人が来場 署名99筆も

赤磐原水協は4月14～15日、赤磐市中央図書館多目的ホールを会場に原爆写真展を行いました。「全国の全ての市町村で原爆写真展を」の日本原水協の呼びかけで開催した岡山県では最初の原爆写真展です。

2日間で232人(大人167人、子ども65人)が来場し熱心に見ていただきました。会場では「核兵器全面禁止のアピール」署名と被爆者募金にも取り組み、署名99筆、募金1520円が寄せられました。

赤磐原水協は今回の写真展を取り組むに当たって赤磐市と赤磐市教育委員会に後援を依頼、了解をいただきました。

写真展の案内ビラ6000枚を作り、市内17の小・中学校を訪問、子どもたちにチラシを渡しました。その結果、2日間で65人の子どもが来てくれました。

福木京子市議は準備の段階で市内に住む80歳の被爆者を訪問し写真展の案内をしまし



た。女性は12歳のとき爆心地から800mで被爆。そのときは偶然に遠方に出かけており直爆はしなかったものの、兄を探してくすぶる焼け跡を探し歩きました。夫婦で写真展を訪れその時の情景を思い出されたのか「直視できない」と言われ「こうした取り組みは本当にありがたいです。原爆の実相をもっともっと知ってほしい。いろんなところで写真展をやってほしい」と話されました。

写真上・展示を見る親子連れ 左・写真展会場(中央は折り鶴コーナー)



アンケートから

心の動く展示でした

小規模でしたが、心の動く展示でした。ありがとうございました。

県内 60代・女性

子どもと来ました

子どもと来ました。まだわかっていないのか、いないのかわかりませんが、近くにこのような写真展が来ることはないのでは貴重だと思い、来ました。

少しでも平和の大切さをわかってくれればと思いました。

赤磐市内在住・30代・女性

原発問題を考える視点に

身近に原爆や核開発について考えられる機会を作っていただきありがとうございます。

原発問題をどうするか、これから考えていくにあたって、過去の原爆被害は欠かせない視点だとも思います。赤磐市内在住・40代・女性

原爆・原発に向き合いたい

去年、学校の平和学習で広島に行き、資料館などでいろいろな事を知りました。この写真展には学校で配られたプリントを見てよかったと思いました。私は中学校などで2011年3月11日にあった東日本大震災についての新聞などが貼られているのを見たことがあります。私の中学校では校長先生主催の「原子力発電について」などの授業も行われました。それを見たり、聞いたりして原発はとても危険なんだと知りました。広島や長崎の原爆も、この東日本大震災の原発事故に関係があると聞いたので、とても興味を持っています。これからも原爆や原発のことに向き合い、たくさん知っていきたいとおもいます。

赤磐市内在住・中学生・女子

これい上ひがいをふやさないで

げんぱくのせいで今もくるしんでいる人がいるのでこれい上ひがいをふやさないようにしてほしい。小1、男子

体験を話す祖母の存在

祖母から戦時中の話を小さいときから聞かされていたので、実際に写真を見て良かった。皮膚が焼けただれたり、黒コゲになった人を見てきた祖母の気持ちがわかった気がする。こんな体験を話してくれる祖母の存在がありがたいと思う。

赤磐市内在住・30代・女性

亡くなった人達の間も生きていかねば

自分が「原爆」という場所にいなくても「原爆」で生きて今のじ代までいる人もいて、今のじ代の子ども達にもつらくても「原爆」っていうのはこういう事だよと教えて、忘れないように、亡くなった人達の間まで自分も生きていかないといけないと感じました。

赤磐市内在住・小学生・男子